

外科カンファレンスの英語化

韓国の Seoul National University Hospital (SNUH) は伝統ある大学病院だが、年間約 1,000 例の胃癌手術をこなす外科学教室では、外国人見学者が一人でもいればカンファレンスをすべて英語で行っている。外国人見学者は常に複数いるので、結局すべてのカンファレンスは英語である。これがさまざまな好循環をもたらしている。学生や若い医師はカンファレンスの資料を英語で準備することを通じて医学英語に慣れ、スタッフは充実した議論を行うために英語力を磨き、そして何よりも、自分たちの仕事を英語化することで国際的視点が育つ。教室員たちの国際学会での発表や受け答えが上手になり、教室の国際的評価が上がる。見学者たちは、単に手術見学に終わるのではなく、理解が深まって研修が充実し、帰国後はこれを周囲に喧伝する。以前は日本に見学に来ていた欧米の外科医たちは、自然にソウルへと向かうようになった。

英語カンファレンスにはもちろん弊害もある。外国語では議論が十分に深まらず、また時間も余計にかかるので、カンファレンスの質が落ちる。抄読会や研究会ならまだしも、臨床に直結するカンファレンスでは質の低下は避けなければならない。この壁を越えるには、SNUH の H. K. Yang 教授のような強いリーダーシップが必要であろう。我慢して英語で通し続けるうちに参加者自身がその意義を体感するようになり、必然的に全体の英語レベルも向上し、好循環が生まれる。しかしそこに達するのは容易なことではない。

韓国には韓国胃癌学会というこぢんまりした国内学会があるが、10 年前にその年次集会を Korea International Gastric Cancer Association (KINGCA) という英語オンリーの国際学会に変更した。高名な医師を海外から多数招聘するといった戦略も奏功して、今では世界 40 か国以上から医師・研究者が集まるようになり、「胃癌を学ぶなら韓国へ」の流れが広がってきている。これに対して、日本胃癌学会は世界の胃癌研究・臨床を牽引してきたが、年次集会の国際化には背を向けることを決めた。「胃癌についてしっかりと母国語で議論したいと考える多くの会員の皆様に資する学会であることを重視」するとして、国際感覚を磨きたい会員は KINGCA に参加するよう奨励しているのである。寂しいことだが、日本語での徹底的な議論がこれまでの胃癌治療の歴史を作ってきたと考えるなら、英語化はむしろ弊害と判断するのもやむを得ないかもしれない。とはいえ、まずは足元のカンファレンスの英語化を進めることで、英語で議論する素養を身に着けることは辛抱強く続けていくべきであろう。

このたび 11 年余り務めてきた本誌の編集委員を若い世代に引き継ぐことになり、これが私の担当する編集ペンの最終回となった。「外科」と「英語」をキーワードに書き始め、ここ数年はコロナ一色になっていたが、最後にこの話題に戻れて嬉しい。本誌の発展を期待しつつペンを置く。

(佐野 武)

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏
名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史
編集 佐野 武 長谷川 潔 船橋公彦

臨床雑誌 外科 第 86 巻 第 1 号 (1 月号) 2024 年 1 月 1 日発行 (1081 号)
編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目 42 番 6 号 小 立 健 太
印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目 15 番 5 号 日経印刷株式会社

発行所 ☎ 113-8410 東京都文京区本郷三丁目 42-6 (営業) TEL 03-3811-7239 : 振替口座 00120-1-149 番
株式会社 南江堂 (編集) TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権 (送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物の利用に関する原著者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

広告申込所: ☎ 113-0033 東京都文京区本郷 5 丁目 24 番 6 号本郷大原ビル 6 階 文京メディカル TEL 03-3817-8036